

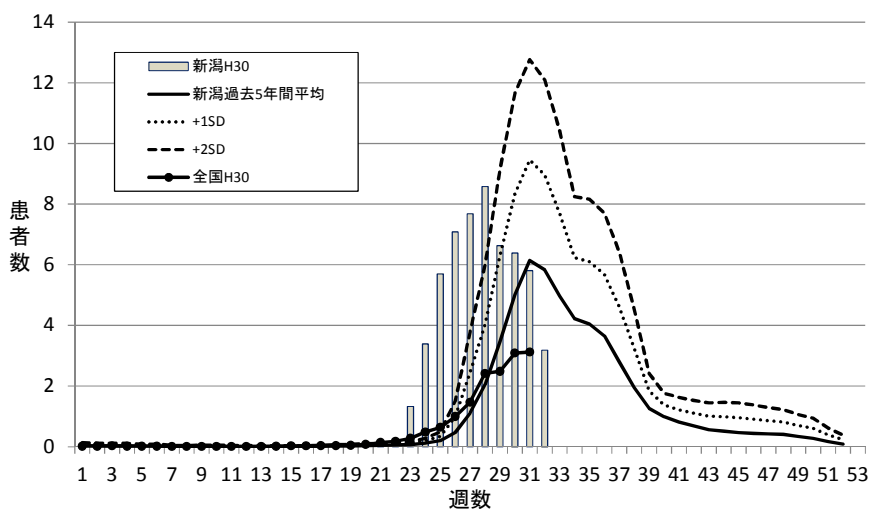
## ヘルパンギーナについて

新潟県福祉保健部健康対策課

## 1 流行状況

- 平成 30 年第 32 週（8 月 6 日～8 月 12 日）の感染症発生動向調査（サーベイランス）において、ヘルパンギーナの定点当たり報告数は全県で **3.19** となり、国の示す警報基準（定点当たり 6）を下回ったものの、国の示す警報終息基準（定点当たり 2）を超えています。
- 管内別にみると、魚沼、南魚沼、十日町、柏崎、村上地域振興局管内において国の示す警報基準を超えています。

ヘルパンギーナ届出数の推移



## 2 ヘルパンギーナとは

- ヘルパンギーナは、発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発しんを主症状とした感染症です。主に夏季に流行するいわゆる「夏かぜ」の代表的疾患です。
- 原因は主にコクサッキーA群ウイルスです。ヘルパンギーナにかかった人の咳やくしゃみ、つばなどのしぶきに含まれるウイルスによって感染します（飛まつ感染）。また、水疱の内容物や便に排出されたウイルスが手などを介し、口や眼などの粘膜に入って感染します（経口・接触感染）。
- 2～4日の潜伏期の後、突然の高熱、咽頭痛や咽頭発赤を呈し、口腔内に水疱や発赤が現れます。水疱は破れて痛みも伴います。2～4日で解熱し、7日程度で治癒します。高熱による倦怠感や口腔内の痛みなどから、食事や水分を十分にとれず、脱水になることもあります。合併症としては、熱に伴う熱性けいれんと、まれに髄膜炎や心筋炎が生じることがあります。

## 3 予防方法

- 予防接種はありません。予防には、手洗い、うがい、咳エチケットが有効です。

## 4 学校保健安全法における扱い

- 学校保健安全法には明確に規定されておらず、その他の感染症（第三種感染症として扱う場合もある）であると解釈されます。
- 通常の流行状況での登校登園については、患者本人の症状や状態によって判断すればよいと考えられます。